

ティーチング・ステートメント

所属： 北海道科学大学
工学部 電気電子工学科
名前： 小島 洋 一 郎
作成日： 2019 年 7 月 27 日
更新日： 2023 年 3 月 22 日

【責任】

工学部電気電子工学科に所属し、専門科目であるセンサ工学を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育・校務活動は電気電子に関連する科目（電気磁気学・センサ工学・制御工学・医療生体電子工学）の担当、ゼミ生の卒業研究支援、学生のキャリア支援、高校生の募集担当（入試広報センター委員）、学科長として学科運営に関わっている。

【理念】

学生が新たな知識を得る楽しさを知り、それを踏まえて、自身の知識を利活用したものが、他者へ貢献する喜びになることを知ってほしい。

理念①：本科に所属する学生が電気電子分野の「基礎知識をしっかりと身に付ける」ことで、自信や自己肯定感を持ってほしい。

理念②：学生自身が「コミュニケーション能力を高める」ことで、明るく朗らかにハングリー精神を持ち、アクティブに活動してほしい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するため、二つの項目「①基礎知識をしっかりと身に付ける」、「②コミュニケーション能力を高める」について、方針・方法を以下に示す。

◆「①基礎知識をしっかりと身に付ける」

方針①：電気電子の基礎知識をしっかりと身に付ける。

方 法：講義 1 回分の内容を A4 判 1 枚の用紙へ要点をまとめた、「授業メモ」を作成する。これにより、重要な個所を自身で見つけまとめる力を身に付ける。

※エビデンス有：授業メモ

方針②：講義で進める教科書の範囲を示し、その都度ページを示すようにする。

方 法：蛍光ペン(消失タイプ)を使用して、重要な個所にアンダーラインやハッチングするようにする。

※エビデンス有：授業メモ

方針③：集中力を向上させる。

方 法：講義用スライドにタイマーをつけ、30 分を 1 クールにしてメリハリをつける。また、クールの最後に要点を示して確認させた後、講義内容にあった最新のトピックを紹介し説明を加える。講義の最後には、ムードルを活用した小テスト(ミニツツペーパーetc.)を利用して理解度の向上と共に集中力を高めるよう指導する。

※エビデンス有：講義 PPT、授業メモ

方針④：達成感を得る。

方 法：3 段階 (H, M, L) のレベルを設けた要点確認テストを解き、学習したことを解ける喜びを得ることで、最終的な達成感を得て積み上げるようにする。

※エビデンス有：講義 PPT、授業メモ

方針⑤：時間(スケジュール)管理を行えるようにする。

方 法：30分で1クールとなるように講義を進めることで、時間の重要性和管理することの大切さを身に付ける。

※エビデンス有：講義 PPT、授業メモ

◆「②コミュニケーション能力を高める」

方針①：オープンキャンパスへ参加する。

方 法：電気電子工学科を紹介する「講義」や「ツアー」に学生が参加することで、高校生や保護者へ学科の魅力を説明できるようにする。

※エビデンス有：参加学生名簿、説明している状況写真

方針②：卒業研究や講義まとめや実験レポートの発表を行う。

方 法：卒業研究の場合は、4年生から3年生へ自身の研究を分かり易く説明できるようにする。

※エビデンス有：参加学生名簿、説明している状況写真

方針③：講義や実験中にグループワークを行う。

方 法：短時間でも授業中に自身の言葉で他者へ説明することを何度も実践する。演習形式の時間を積極的に設けて学生の自発性を促し達成感を得る。

【評価・成果】

・学生の授業アンケートにて高評価を得ることが出来た。

※エビデンス有：授業アンケート

・教育に関する表彰を受賞した。

※エビデンス有：各種表彰状

【目標】

・ムードルや UNIPA の機能を理解し、適切なレベルの問題を提示できるようにし、基礎知識の定着を図る。(2019年後期から)

・学生の自主性を引き出し、会話が弾むような学科イベントを開催することでコミュニケーション能力を高める。(2019年後期から)

・①明るく元気な教員、②声掛けを絶やさず学生自身の存在を最大限認める教員、③学科・学部・大学など多くの教員と円滑な連携を図り、学生を大幅に成長させる教員を目指す。